

## 第2学年 道徳学習指導案

日 時 1月24日(木) 5限目  
指導者 東森 敬子  
場 所 2年教室

1 主題名 どうぶつと ころろが かよいあう 3－(2) 動植物愛護

2 資料名 デカとぼく (ふるさとがはぐくむどうとくいしかわ)

3 ねらい 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。

- ・坂牧さんのお話から、日々の世話をし声をかけていく中で動物と心が通い合っていくことがわかる。
- ・動物に優しい心で接していこうとする。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

動植物は自然環境の中で生きており、それぞれの環境に適応して生活を営んでいる。人間も地球に住む生物の一員であり、環境とのかかわりを抜きにしては生きてはいけない存在である。自然や動植物を愛し自然環境を大切にしようとする態度は、地球全体の環境の悪化が懸念されている現在、私たちも、そして次の世代を担う児童らもぜひ身に付けなければならない大切な道徳的価値である。動物や植物の持つ不思議さ、生命の力、そして、共に生きていることの愛おしさなどを感じることで、自然や動植物を大事に守り育てようとする気持ちが強くはぐくまれる。

低学年では、身近な自然の中で遊んだり、動植物の飼育栽培などを体験し自然や動植物などと直接触れたりすることを通して、それらに対する優しい心を養うことが求められる。

(2) 児童について(男子20人 女子12人)

学級の児童は、動植物に強い興味と関心を持っており、これまでに生活科で虫を飼育したり、野菜を育てたりする経験をしてきている。また、身近な生き物にすぐ触れてみたり、きれいな花を見て摘んでみたり、実や種を大切に集めたりしている場面に出会うことも多い。

しかし、動植物をいたわろうとする心や態度というよりも、自己中心的な接し方で、一時の気まぐれや思い付きで飼ったり育てたりすることが多い。自分が飽きてしまうと、動物が死にそうになっていたり、植物が枯れそうになっていたりしていても気づかずにいる場合もある。このような実態は、動植物に優しい心で接することの大切さを理解しているとは言いがたい。

そこで、自然や動植物などと直接触れ合うことを通して、それらに対し優しい心で接しようという心情を育てていきたい。

(3) ねらいにせまるために

導入では、今まで動物を飼った時のことを想起させる。この活動により、自分なりの生き物への思いを素直に表出させ、自分と生きものとのかかわり方について具体的なイメージを持たせながら、

資料の範読を聴かせる。

展開では、デカの写真から、デカが坂牧さんを信頼していることを確認し、そこに至った坂牧さんの気持ちや行為に気付かせたい。デカのペースに合わせ、デカのことを考えながら世話をしている坂牧さんの優しさや、デカへの思いを考えさせ、生きものの気持ちを考えて接することの大切さを理解させたい。また、「ありがとうデカ」の言葉から、人と動物の関係は、世話をする、世話をされるの一方通行ではなく、共に生きていくことの愛しさがあることを感じさせたい。

最後に、ゲストティーチャーとして坂牧さんの話を聴くことで、さらに価値について考えを深めていきたい。

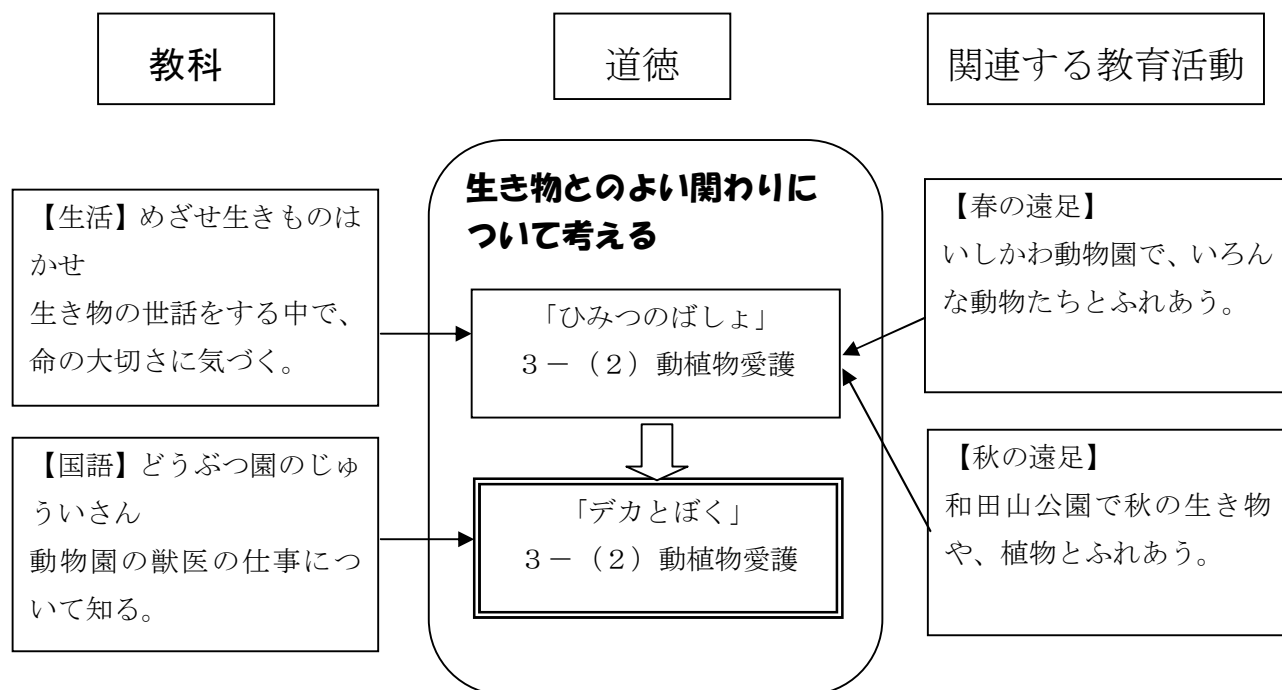
## 5 資料となる内容について

### 〈坂牧さんの話の内容〉

動物たちと仲良くなるためには、こちらから挨拶や声かけをし、よく観察する中で動物の言いたいことや気持ちを汲み取ってあげることが大切である。デカの飼育員をしていたときも、食べ残しや、その日の様子から、野菜を多めにしたり、すきなおからを増やしたり、食べるまで待ったりした。そうやって、デカとも仲良くなっていくことができた。

子どもたちには動物のことをもっと知ってほしい。動物のことを知って、仲良くなればなるほど、動物の不思議さに気づくことができる。そして、生き物の命のすばらしさに気づくことができる。

## 6 その他の教育活動との関連



7 展開

配 時	主な学習活動	○指導上の留意点 ■評価
導 入 5	<p>1. 動物について話し合う</p> <p>○みんなは動物の気持ちがわかりますか。動物は人の気持ちがわかると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私の家の猫は、お母さんが「ごはん。」と言うとうれしそうに、ついていくよ。</li> <li>・かわいがっていると、返事をするよ。</li> </ul>	<p>○今まで触れ合ったことのある動物についての経験を思い出させ、動物は、人の気持ちがわかることに気づかせる。</p>
展 開 35	<p>2. 「デカとぼく」を読んで話し合う。</p> <p>○坂牧さんとデカは、どんなことを言い合っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・坂・・・いつまでも、元気でいてね。 ぼくに甘えて、かわいいな。</li> <li>・デ・・・いつもお世話してくれてありがとう。 坂牧さんのことだいすきだよ。</li> </ul> <p>○坂牧さんとデカは最初から仲がよかったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急ぎすぎてデカをおこらせたよ。</li> <li>・けがをしたこともあるよ。</li> </ul> <p>◎坂牧さんとデカはどうして、仲良くなったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デカにあわせているから。</li> <li>・坂牧さんがデカの気持ちを考えているから。</li> <li>・坂牧さんもデカのことを好きだから。</li> <li>・デカを大切に思う坂牧さんの気持ちが伝わったから。</li> </ul> <p>○坂牧さんはどんな気持ちで「ありがとうデカ」と言ったのでしょうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デカのお世話を通して、いろんなことがわかったよ。</li> <li>・デカの飼育員になってよかったな。</li> <li>・ぼくと、一緒にいてくれてありがとう。</li> </ul> <p>3. ゲストティーチャー「坂牧さん」のお話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デカの体の調子を見てえさも変えているってすごいな。</li> <li>・動物にはちゃんと気持ちが伝わるんだな。</li> <li>・お互いに大切に思える関係ってすごいな。</li> </ul>	<p>○吹き出しの中に言葉を入れることで、坂牧さんとデカの気持ちに共感させる。</p> <p>○写真を活用し、デカが坂牧さんを信頼していることに気づかせる。</p> <p>○デカが怒ったことから、最初はいまいかなかったことをおさえる。</p> <p>○坂牧さんの姿から、生き物に思いやりを持って接することで、心が通い合うことに気づかせる。</p> <p>○「世話をする楽しさ」「生きる力強さ」「ぼくの先生」という言葉からも、デカと共に生きた坂牧さんの思いを想像させる。</p> <p>■坂牧さんのお話から、日々の世話を 行い声をかけていく中で動物と心が 通い合っていくことがわかる。</p>
終 末 5	<p>4 自分の生活を振り返る</p> <p>○みなさんも、動物や植物のことを考えて世話をしたことがありますか。</p>	<p>○今までの自分の動物とのかかわり方を想起させる。</p> <p>■動物に優しい心で接していこうとする。</p>

## 8 板書計画

